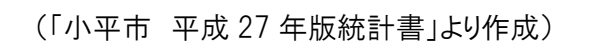


これまでの小平市のスポーツ施策の進捗状況（P25）

小平市のプロフィール (P10)

丁目別人口密度



小平市民のスポーツに関するアンケート調査の結果（速報版 抜粋）

小平市民のスポーツに関する現状

※以下「○」で始まる文章はグラフや図表を掲載している項目です

○日頃の生活の中で、身体に不自由を感じることがある人は **13.1%(下肢 61.0%)**

○運動やスポーツをすることが「好き」「どちらかといえば好き」の合計は **77.5%**

●子どもの頃、運動やスポーツをすることは「好きだった」「どちらかといえば好きだった」の合計は **74.1%**

●運動やスポーツを観ることは「好き」「どちらかといえば好き」の合計は 81.1%

●子どもの頃、運動やスポーツを観ることは「好きだった」「どちらかといえば好きだった」の合計は 74.7%

●自分の体力について「自信がある」「どちらかといえば自信がある」の合計は 49.2%

○「ほとんど毎日運動をする」小平市の児童・生徒の割合は、小・中学校の全学年において都の平均値を上回っている。また、男子は年齢があがるにつれて割合が高くなる傾向がみられるます。

●小平市の児童・生徒の体力・運動能力は東京都の平均値と比較して、小学校、中学校ともに男子は全8種目※中7種目、女子は全8種目上回っている（※8種目：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とび、ソフトボール投げ）

●日頃、運動不足を「感じている」「どちらかといえば感じている」の合計は **79.9%**

●日常生活の中で、通勤時に一駅分歩く、エレベーターを使わず階段を利用するなど、積極的に身体を動かすことを「時々取り入れている」が 46.0%と最も多く、ついで「可能な限り取り入れている」が 28.7%、「特に取り入っていない」が **24.1%**

校種	学年	男子				女子			
		ほとんど毎日	週1～2日	月1～3日	しない	ほとんど毎日	週1～2日	月1～3日	しない
小学校	第1学年	33.1	52.5	7.0	7.4	24.5	50.5	9.7	15.3
	第2学年	44.9	43.4	6.0	5.7	28.2	53.0	8.5	10.3
	第3学年	50.3	39.5	6.2	4.0	31.8	51.4	8.4	8.5
	第4学年	57.6	32.8	5.9	3.7	38.1	49.5	7.8	4.6
	第5学年	60.9	31.6	4.9	2.6	42.6	47.3	7.6	2.5
	第6学年	60.1	30.1	5.6	4.2	35.1	48.0	11.1	5.8
中学校	第1学年	83.8	10.2	3.0	3.0	64.5	13.7	10.2	11.6
	第2学年	81.9	8.2	5.2	4.6	59.5	13.4	12.2	14.9
	第3学年	73.8	12.9	5.4	7.9	53.6	13.4	9.6	23.4

■：東京都平均値を上回っている数値
(平成27年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果)

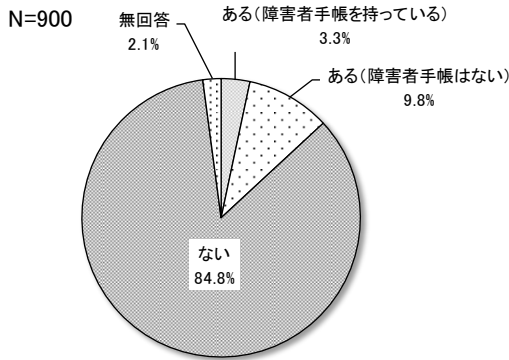
●この1年間に行った運動やスポーツは「ウォーキング(歩け歩け運動、散歩などを含む)」が 57.7%と最も多い

○週に1日以上スポーツをしている市民の割合は **52.8%**

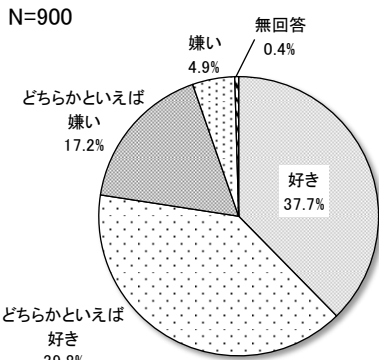
○週に1日以上スポーツをしている市民の割合は 60歳以上で70%を上回っている一方で、30～49歳の世代は50%を下回っており、世代が若いほど実施率が低い傾向がみられる(ページ右上図)

●運動やスポーツを行ったのはどのような理由は「体力増進・健康づくりのため」が 52.5%と最も多い

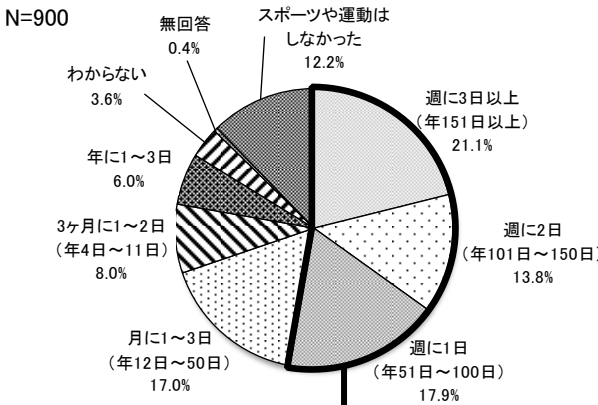
●運動やスポーツを比較的好く行う時間帯は「平日午前」が 21.5%と最も多い



身体に不自由を感じるがあるか



運動やスポーツをすることは好きか



週1日以上スポーツ実施率: 52.8%

●普段運動やスポーツを行う場所は「公園、広場、遊歩道」が 42.9%と最も多い

●今以上に運動やスポーツを行う機会を増やしたいかについては「増やしたいが、増やすことができない」が **50.6%**と最も多い

●運動やスポーツをしなかった理由は「仕事(家事・育児)」が忙しくて時間がないから」が **42.9%**と最も多い

●自分の好きな運動やスポーツのクラブ、同好会に「加入したいと思う」が 30.4%と最も多い

●この1年間に、スポーツイベント、大会等に「参加していない」が **82.8%**で最も多い

○運動やスポーツに関する市の情報の入手手段は「市報こだいら」が **49.9%**と最も多い。

また、運動やスポーツに関する市の情報の入手していない人は **34.7%**

●スポーツに関して知りたい市の情報は「施設の利用案内」が 38.7%と最も多い。「特に知りたい情報はない」は **19.8%**

○スポーツに関するボランティア活動を「行っていない」人は **89.6%**

●知っている、または聞いたことがある障がい者スポーツの用語は「パラリンピック」が **96.4%**と最も多く、ついで「車いすテニス」が **83.9%**、「車椅子バスケットボール」が **82.1%**

●この1年間に障がい者スポーツを直接見たかどうかは、「いいえ」が **93.6%**

●市のスポーツを支える人、団体、制度について「知っているものはない」が **51.3%**

●スポーツを行うために利用したことのある公共施設は「市民総合体育館(体育室)」が 27.4%と最も多い。また、「利用した施設はない」は **34.9%**

●利用した施設について「満足」「やや満足」の合計は **68.6%**

●市が重点を置いて取り組んでいくべきことは「幼少期からのスポーツ・運動体験の充実」が **42.7%**と最も多い

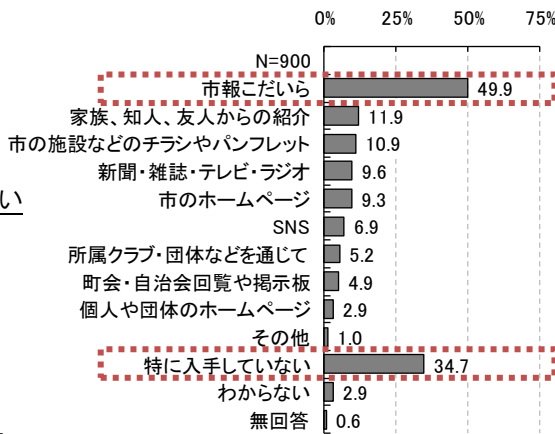
●2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、「東京オリンピック・パラリンピック」)開催を契機として期待することは「経済が活性化する」が **44.2%**と最も多くなっています

●東京オリンピック・パラリンピックの運営補助などのボランティア活動には「できれば参加したい」が 27.2%と最も多く、ついで「わからない」が 26.7%、「あまり参加したいとは思わない」が **19.4%**となっています

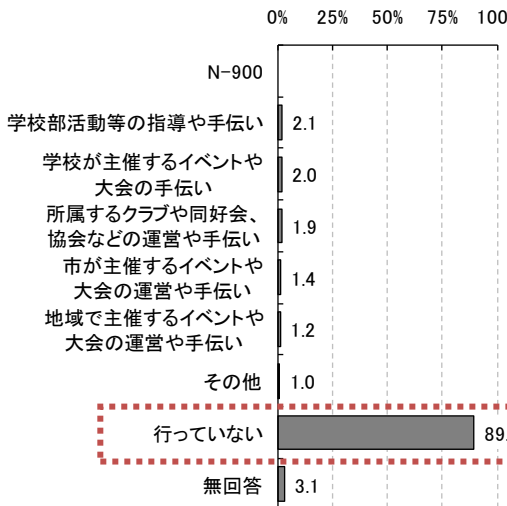
●東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、小平市に期待することは「バリアフリー・障がい者理解の推進」が **28.6%**と最も多くなっています

週1日以上スポーツ実施率	
19歳以下	52.6
20～29歳	50.5
30～39歳	49.0
40～49歳	48.6
50～59歳	54.2
60～64歳	71.6
65～69歳	77.0
70～74歳	76.7
75歳以上	85.7

年齢別にみた週1日以上スポーツ実施率



情報の入手手段



ボランティア活動の参加状況

スポーツに関する課題及び基本方針

スポーツに関する動向及び小平市のスポーツに関する現状を踏まえ、課題を以下のとおり整理しました。また、こうした課題を踏まえ、以下に示す6つの基本方針を設定し、施策を推進していくこととします。

小平市民のスポーツに関する現状のまとめ

◆ライフステージ・ライフスタイルに応じた運動やスポーツの機会づくり

- 週に1日以上運動やスポーツを行う市民の割合が若い世代で低い
→運動やスポーツのきっかけづくりが必要
- 運動やスポーツを行う機会を増やしたいが増やすことができない人が多く
→市民の状況に応じた運動やスポーツの機会や場の充実が必要
- 運動やスポーツのイベントへの参加者が少ない
→身近な場所での運動やスポーツに取り組むきっかけづくりが必要
- 市のスポーツ施設を利用していない人が3割以上いる→施設の利用促進が必要
- 子どもの遊び場の減少、運動やスポーツをする/しない子どもの2極化→対策を検討
- 年齢、性別、世帯状況、障がいの有無等に関わらず、だれもがスポーツに親しめる機会・場づくりは必要

◆障がい者スポーツの認知度向上と場づくり

- 障がい者スポーツを直接観戦した市民が少なく、車イス競技以外の認知度も高くない
→障がい者スポーツの観戦等の機会や認知度向上に向けた取り組みが必要
- 障がい者と健常者がともに楽しめるユニバーサルスポーツの普及促進とともに誰もがスポーツ親しめる環境づくりが必要
- 障がいのある人がスポーツをする機会の創出と情報の周知が必要

◆スポーツをささえる取組み

- 市のスポーツをささえる人、団体、制度を知らないが半数以上
→スポーツをささえる指導者、団体等の支援が必要
- 9割近くの人がスポーツに関するボランティア活動をしていない
→スポーツをささえる活動の推進が必要

◆スポーツに関する情報提供

- 市報以外情報提供が十分ではない。また、情報入手していない人が3割以上いる
→多くの市民に届く、情報技術を活用した情報提供が必要
- 特に知りたい情報はない人が2割近くいる
→運動やスポーツの興味・関心の向上につながる情報提供が必要

◆2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組み

- ボランティア活動への参加について、「わからない」「参加したいと思わない」が合わせて4割以上
→開催を契機として市民の興味・関心向上の取組みが必要
- 教育活動や文化芸術活動への期待が低くなっている
→スポーツを通じた異文化への理解促進の取組みも必要

スポーツに関する課題（P26、27）

課題1：だれもがスポーツに親しめる機会の充実に 向けた課題

スポーツの時間が取れない方や苦手な方に対して、体力や、性別、世帯状況、障がいの有無等に関わらず、だれもがスポーツに親しめる機会の充実が求められています。

課題2：人財育成に向けた課題

これまで培われてきたスポーツ推進委員をはじめとするスポーツ指導者や小平市体育協会等の団体の人財・組織力を今後も活かしていくための連携・協働体制のさらなる充実が求められています。

課題3：スポーツをする場の整備・充実に向けた課題

今後も市民の多様なスポーツを支えるためには、身近な公園、広場、緑道の整備、学校体育施設、地域センターの有効活用や近隣市に所在するスポーツ施設との相互利用を推進していくことが求められています。

課題4：効果的な情報発信・提供に向けた課題

情報技術を活用し、公共施設予約システムの利便性の向上や多様な手法・媒体を活用した情報提供に取り組むことが大切です。一方で家族、知人、友人からの紹介による情報発信（クチコミ）も効果的であることから、人のつながりの輪を広げていくことが重要であるといえます。

課題5：スポーツを通じた地域づくりに向けた課題

子どもから大人まで地域に根差し、人がつながる連帯感の向上などスポーツを通じた新しい交流の広がりが求められているといえます。

課題6：2020年東京オリンピック・パラリンピック に向けた課題

経済の活性化のほか、子どもや障がいのある人のスポーツ機会や環境の充実が求められています。また、スポーツボランティア等の活動促進を図りつつ「する」「みる」「ささえる」スポーツの実践へとつなげ、大会終了後も市民の運動やスポーツへの関心を高める「レガシー（遺産）」の継承も求められています。

基本方針（P30）

基本方針 1

だれもがスポーツに親しめる
機会の充実

基本方針 2

スポーツ推進に関わる人財の
育成

基本方針 3

スポーツをする場の整備・充実

基本方針 4

スポーツ活動につながる効果
的な情報の発信や提供

基本方針 5

スポーツを通じた仲間づくり
・地域づくり

基本方針 6

2020年東京オリンピック・
パラリンピックに向けての
対応